

AsReader

AsReaderDesktopMulti Demo

マニュアル V1.1

変更履歴

序号	バージョン	変更内容	日付
1	1.0	新規作成	2020/05/28
2	1.1	Power の説明を追加	2021/12/9

目 次

1	リーダーの接続.....	3
1.1	USB 接続.....	3
1.1.1	USB シリアルポート接続.....	3
1.1.2	複数の Desktop 接続.....	4
1.1.3	USB HID モード接続.....	4
2	基本設定.....	6
2.1	USB 接続.....	6
2.2	パラメータ設定.....	6
2.2.1	Reader address.....	6
2.2.2	Power.....	6
2.2.3	Reader serial number.....	7
2.2.4	地域.....	8
2.2.5	RS232/485 Baud Rate.....	8
2.2.6	GPIO 操作.....	8
2.2.7	Beep.....	9
2.2.8	Buffer EPC Length.....	9
2.2.9	Restore default Settings.....	9
2.2.10	Get Reader Information.....	9
2.2.11	HID Work Parameter.....	10
3	必要な知識.....	11
3.1	EPCC1G2 タグのメモリ.....	11
4	EPCC1-G2 画面の説明 (Answer-Mode).....	12
4.1	パラメータ設定.....	12
4.2	読み取りスタート.....	12
5	EPCC1-G2 画面の説明 (Buffer-Mode).....	14
6	EPCC1-G2 Test ・ Read/Write Tag.....	17
6.1	タグを特定.....	17
6.2	Read Data/Write Data/Block Erase.....	17
6.2.1	画面の内容を紹介.....	17
6.2.2	Read date.....	17
6.2.3	Write date.....	18
6.2.4	Write EPC Code.....	18
6.2.5	Block Erase.....	19
6.3	Mask.....	19
6.4	パスワードを変更.....	20
6.4.1	Access Password.....	20
6.4.2	Kill Password を変更.....	21

6.5	Write EPC	21
6.6	Set Protect For Reading Or Writing	21
6.7	Read Protection	22
6.7.1	Set Single Tag Read Protection.....	22
6.7.2	Set Single Tag Read Protection Without EPC.....	22
6.7.3	Reset Single Tag Read Protection Without EPC.....	23
6.7.4	Detect Single Tag Read Protection Without EPC.....	23
6.8	EAS Alarm	23
6.8.1	アラーム設定.....	23
6.8.2	アラーム検出.....	23
6.9	Kill Tag	24

事前に Demoapp をダウンロードしてください。

1 リーダーの接続

1.1 USB 接続

1.1.1 USB シリアルポート接続

リーダーのスイッチを以下のように設定します。

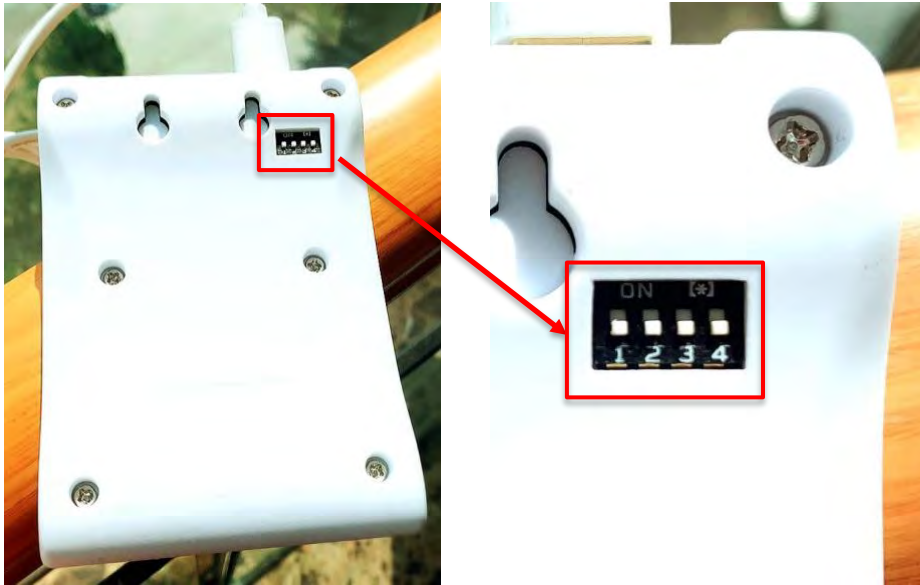


図 1-1-1-1 スイッチを設定

USB でリーダーとコンピュータを接続します。



図 1-1-1-2 リーダーを接続

リーダーとの接続が成功した場合、Beep 音が鳴り、デバイス内部の LED が点灯になります。

1.1.2 複数の Desktop 接続

ステップ 1 : 1.1.1 USB シリアルポートモードに従って接続し、2 つのデスクトップをコンピューターに接続します。

ステップ 2 : DemoAPP を開き、Device1、Device2 ページで、[Connect] ボタンをクリックします。接続に成功したら DemoApp 対応ページの機能がアクティブになります。各種デバイスのパラメータ設定については、2.2 パラメータ設定を参照してください。

注意 : デモアプリを起動するときに、右クリックで .exe ファイルをタップし、管理員権限を選択する必要があります。

直接 .exe ファイルを開く場合、接続失敗が発生する可能性があります。

エラーメッセージは下図の通り :



図 1-1-2-1 接続失敗

画面の一覧 :

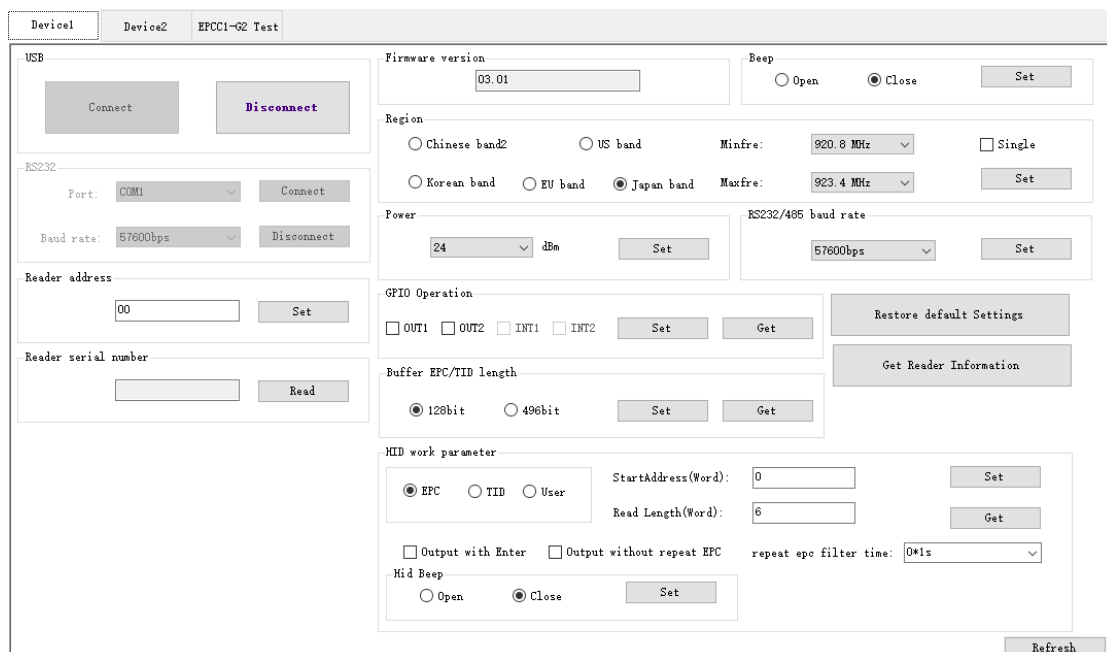


図 1-1-2-2 画面の一覧

1.1.3 USB HID モード接続

リーダーのスイッチを以下のように設定します。

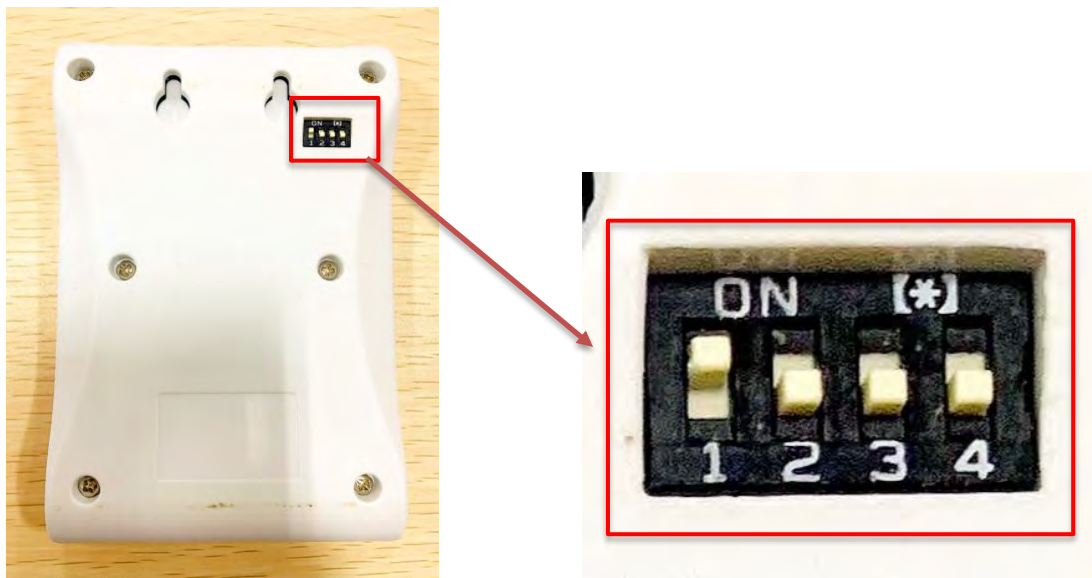


図 1-1-3-1 スイッチを設定

USB でリーダーとコンピュータを接続します。



図 1-1-3-2 リーダーを接続

リーダーとの接続が成功した場合、Beep 音が鳴り、LED が点灯します。

2 基本設定

2.1 USB 接続



図 2-1-1 USB ポートを開く

「Connect」をタップすると、リーダーと接続されます。「Disconnect」をタップすると、リーダーとの接続を切ります。

2.2 パラメータ設定

リーダーを接続成功した後、パラメータを設定する必要があります。

2.2.1 Reader address

新しいリーダーのアドレスを設定する機能です。

(アドレスを 0xFF に設定しないでください。

0xFF に設定した場合エラーになります。)

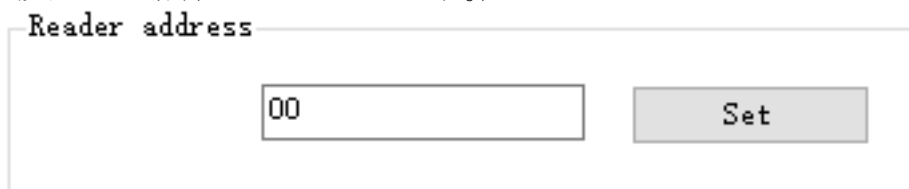


図 2-2-1-1 Reader address

2.2.2 Power

アンテナのポートから発信する周波数の強さです。

単位：dBm。電源を設定及び保存する機能です。

パワーの範囲は 0dBm -24dBm です。設定した後、自動的に保存されます。リーダーを再起動しても前回設定した値が設定されています。

初期値は 24dBm です。

※日本でご使用の場合は 0~13dbm の間で値を設定してください



図 2-2-2-1 パワー

2.2.3 Reader serial number

リーダーのシリアル番号を取得します。

「Read」 ボタンをクリックするとリーダーのシリアル番号が取得されます。

Reader serial number



The image shows a software interface for reading a reader's serial number. It consists of a rectangular frame containing the text 'Reader serial number' at the top left. Below this text, there is a horizontal input field on the left and a button labeled 'Read' on the right.

図 2-2-3-1 Reader serial number

2.2.4 地域

リーダーの使用地域を選択する機能です。
地域によって、リーダーが使用する周波数帯が違います。
最大・最小の周波数を設定する可能です。
国・地域によって、周波数の標準も違います。設定した地域によって、スマートカードが読み取れる周波数の範囲を選択することができます。
「Single」を選択すると、シングルモードに設定されます。
この場合は「Minfre」と「Maxfre」を同数に設定してください。



図 2-2-4-1 地域

2.2.5 RS232/485 Baud Rate

デモアプリを起動する場合、デフォルトボーレート 57600 で COM ポートを開きます。ポートをオン・オフした場合、ボーレートは変わりません。ボーレートを変更した場合、電源を切断するまでに、リーダーが新ボーレートを使用します。

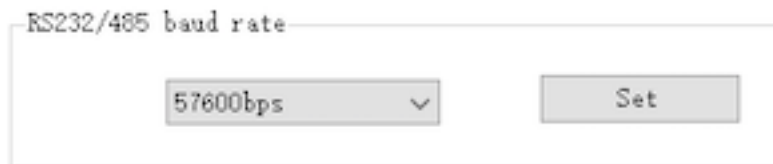


図 2-2-5-1 RS232/485 baud rate

2.2.6 GPIO 操作

適切なピンを選択してください。“Set”をクリックしてピンのステータスを設定します。ピンのステータスを取得するには、[Get]をクリックします。



図 2-2-6-1 GPIO 操作

2.2.7 Beep

Beep 音のオン・オフを設定する機能です。

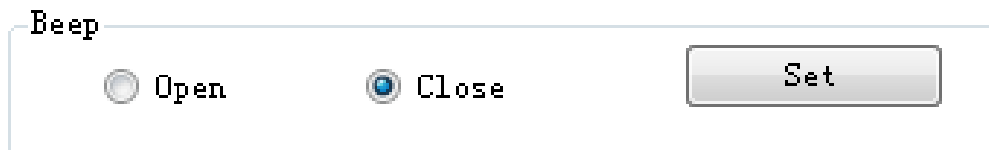


図 2-2-7-1 ブザー

2.2.8 Buffer EPC Length

バッファモードでタグの EPC の長さを取得・設定する機能です。



図 2-2-8-1 Buffer EPC Length

2.2.9 Restore default Settings

「Restore default Settings」ボタンをタップすると、リーダーが出荷時のデフォルト設定値にリセットされます。



図 2-2-9-1 Restore default Settings

2.2.10 Get Reader Information

「Get Reader Information」ボタンをタップすると、リーダーの情報が取得されます。



図 2-2-10-1 Get Reader Information

2.2.11 HID Work Parameter

デバイスの背面にあるスイッチ 1 をオンにしてから、USB ケーブルを接続して HID モードに入ります。図 1-1-2-1-1 に示すように。デバイスが HID モードで動作している場合、ソフトウェアをコンピューターに接続することは不可または必要ありません。電源投入後にタグが近づいている限り、デバイスは自動的にタグを読み取り、コンピューター画面上の点滅カーソルのところに読み取られたタグデータを表示します。

HID work parameter

EPC TID User

StartAddress(Word): 0 Set

Read Length(Word): 6 Get

Output with Enter Output without repeat EPC repeat epc filter time: 0*1s

Hid Beep

Open Close Set

図 2-2-11-1 HID Work Parameter

デバイスが HID モードでスキャンされたタグデータがどのエリアへ出力するか、

及びこのモードで Beep 音が出るかどうかを設定する機能です。

Set : HID モードの動作パラメーターを設定します。

Get : デバイスの HID 情報を取得します。 “

3 必要な知識

3.1 EPCC1G2 タグのメモリ

タグメモリは4つのメモリ領域に分割され、それぞれが1つまたは複数のメモリワードで構成されます。これら4つのメモリ領域は次のとおりです。

EPC エリア (EPC) : このエリアはEPC番号を格納するために使用されます。このモジュールは15語のEPC番号を格納することを規定しています。この領域は読み書きできます。

TID 領域 (TID) : ID番号の格納に使用されます。タグの製造元が領域を定義します。現在のところ、ID番号、4ワード、8ワードの2種類があります。この領域は読み込みはできますが、書き込むことはできません。その内容は変更できないため、TIDコンテンツを使用してターゲットタグを正確に検索し、タグの他のメモリ領域の内容を変更することができます。

ユーザーエリア (ユーザー) : このエリアのコンテンツは、製造元によって異なります。ImpinjのG2タグにはユーザーエリアはありません。NXPが製造したラベルには28語が含まれています。この領域は読み書きできます。

パスワード領域 (パスワード) : 最初の2つの単語はキルパスワードを表します。最後の2つのワードはアクセスパスワードを表します。この領域は読み書きできます。

これらの4つのメモリ領域に対して書き込み保護を設定することができます。これらの領域は決して書き込み可能でないことを意味します。また、不完全な状態での書き込みは安全ではありません。

パスワード領域のみが読めないように設定できます。

4 EPCC1-G2 画面の説明 (Answer-Mode)

この画面は以下のように設定します。

4.1 パラメータ設定

通常はこの設定のままでご使用ください。

Q:	<input type="text" value="4"/>	Session:	<input type="text" value="0"/>	Max-ScanTime:	<input type="text" value="10*100ms"/>
Target:	<input type="text" value="A"/>	<input checked="" type="checkbox"/> Read	<input type="text" value="2"/>	times no tag, then A/B conversion	

図 4-1-1 パラメータ設定

4.2 読み取りスタート

「Start」ボタンをクリックすると、EPC データがリアルタイム更新されます。「Stop」ボタンをクリックするまで読み取りが続きます。

以下の通りです：

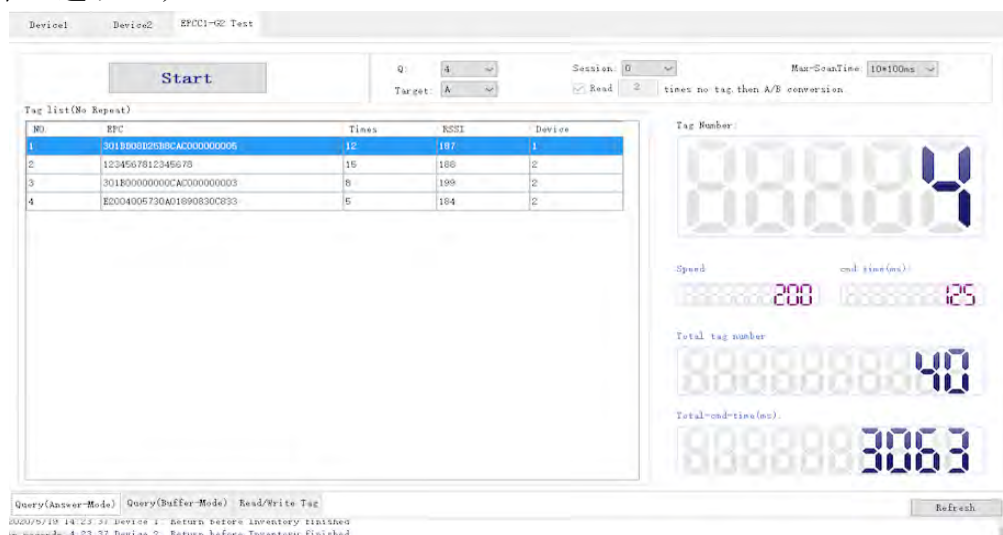


図 4-2-1 棚卸しスタート

表示されているデータの詳細情報は以下となります：

Tag Number	読み取りをスタートしてから、読み込んだタグの数です
Speed	タグを読み取るするスピードです。単位：本/秒。
Cmd time(ms)	読み取り毎に必要なだった時間です。単位：ms
Total tag number	読み取れたタグの累算数です。タグ一本を読み取る度リアルタイムに記録されます。重複読み取れたタグも合算されます（延数）。
Total-cmd-time(ms)	読み取りスタートしてから、全てのタグを読み取るまでの総時間です。単位：ms

4-2-1 データ詳細情報

Tag list (No Repeat) タイトル情報：

No.	データのシリアルナンバー
EPC	タグのEPC番号
Times	タグが認識された総回数
RSSI	タグが認識された時信号の強さ
Device	データ読み取りのDeviceの番号

4-2-2 Tag list のタイトル情報

5 EPCC1-G2 画面の説明 (Buffer-Mode)

Buffer-Mode：読み取られたタグをリーダーのバッファモードに保存することができます。必要な時に一回で全てのタグをアップロードし・AsReader Desktop USB Demo タグリストに表示することができます。

バッファモードでは重複のデータをフィルターした後アップロードするので、コミュニケーションのデータが少ないです。しかし、大量のデータを読み取りする場合、データ総量の中から、フィルターする必要があるため時間がかかる場合があります。大量のデータを読み取る場合、このモードでは効率率が下がる場合があります。

※バッファデータを取得するときに読み書きすることができません。

バッファモードでタグを読み取る場合。

「Start」ボタンをタップして、タグを識別します。この時に「Start」ボタンから「Stop」ボタンに表示が変更されます。

「Start」ボタンをタップ（読取開始）→「Stop」ボタンをタップ（読取終了）。読み取られたタグ数は自動的に「Total tag number」に加えます。

例で使用したパラメータ：Q=2、S=1、Target A

Answer-Mode で上記パラメータを設定します。

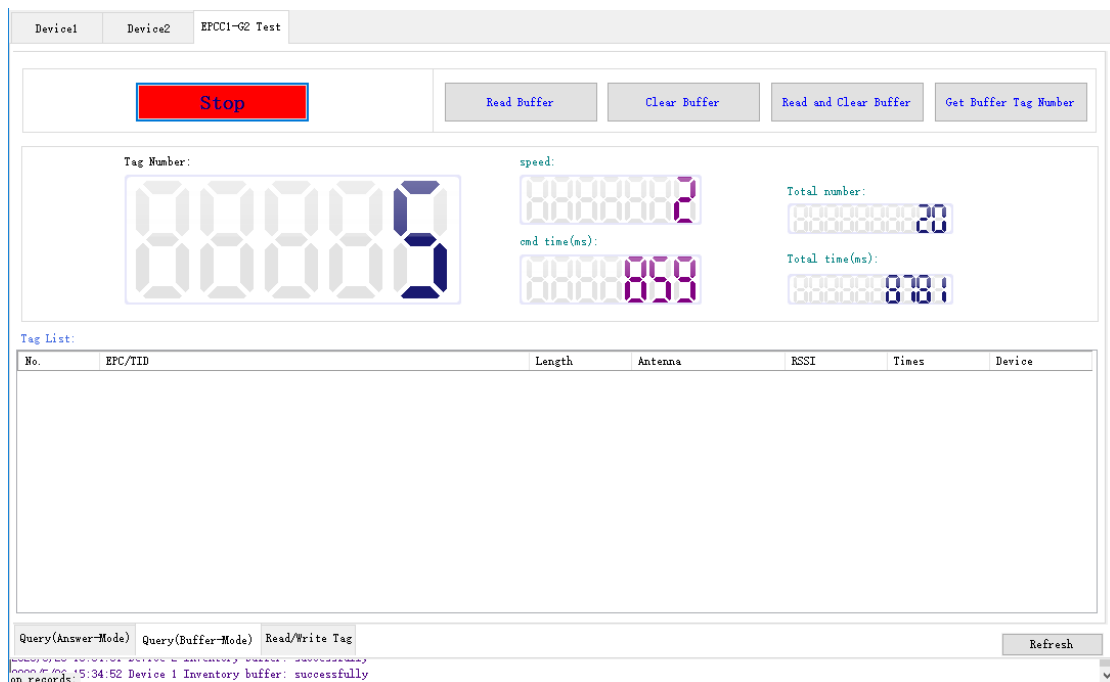


図 5-1 Buffer-Mode

読取中は「Tag Number」の数が増えますが、タグリストにはデータが表示されません。

タグのデータを取得する場合、「Stop」ボタンをクリック、そして「Reader Buffer」をクリックした後、バッファに保存しているデータが下記のようにアップロードされます。

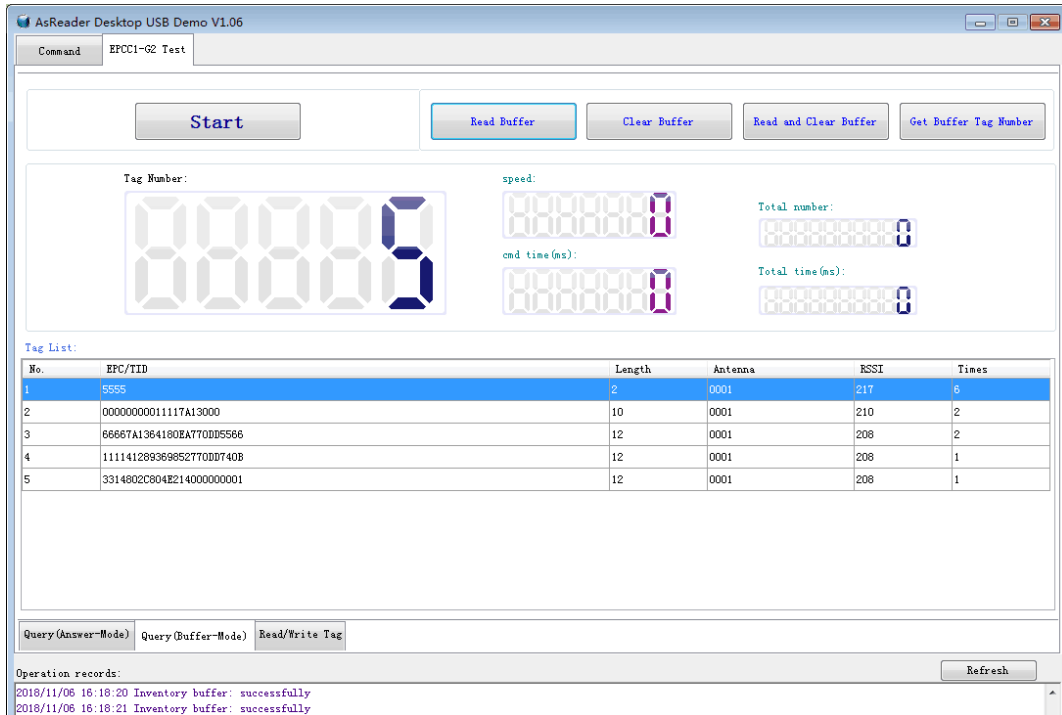


図 5-2 データアップロード

タイトル情報：

Tag Number	読み取りをスタートしてから、読み込んだタグの数です
Speed	タグを読み取るするスピードです。単位：本/秒。
Cmd time(ms)	読み取り毎に必要なだった時間です。単位：ms
Total tag number	読み取れたタグの累算数です。タグ一本を読み取る度リアルタイムに記録されます。重複読み取れたタグも合算されます（延数）。
Total-cmd-time(ms)	読み取りスタートしてから、全てのタグを読み取るまでの総時間です。単位：ms

5-1 タイトル情報

Tag list (No Repeat) タイトル情報：

No.	データのシリアルナンバー
EPC/TID	タグの EPC 番号
Length	EPC の長さ。単位：Bytes
Antenna	データ読み取りのアンテナの番号
RSSI	タグが最後の一度認識された時信号の強さ
Times	タグが認識された総回数
Device	データ読み取りの Device の番号

5-2 タグリストのタイトル情報

バッファに関するボタンの機能は以下となります。
 Clear Buffer：バッファデータをクリアし、画面を更新します。

Read and Clear Buffer : データをバッファから読み取った後、データをクリアします。再度「Read Buffer」をクリックしたタイミングでクリアされます。

Get Buffer Tag Number : バッファでタグの数だけを知りたい場合、このボタンをクリックすると、タグ情報をアップロードせず、タグの数だけが表示されます。

6 EPCC1-G2 Test ・ Read/Write Tag

6.1 タグを特定

操作手順：

- (1) タグのプルダウンリストにターゲットタグを選択します。
- (2) 「Select」 ボタンをタップします。
- (3) 「Selected tag」 をタップします。

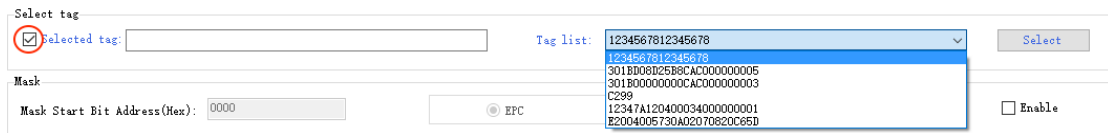


図 6-1-1 タグを選択する手順

注意： タグの読み取り/書き込み/ロック/強制終了時に、タグが選択されている場合、選択されたタグのみが操作されます。 タグが選択されていない場合、アンテナの有効範囲内のタグがランダムに選択されて動作します。

6.2 Read Data/Write Data/Block Erase

6.2.1 画面の内容を紹介

Start address (word /Hex)：0x00 は指定されたメモリ領域の最初のワードからデータを読み取ることの意味し、0x01 は指定されたメモリ領域の 2 番目のワードからデータを読み取ることの意味します。

Length (word/decimal)：読む単語の数。 注：一度に読み取れる最大長は 120 語 (240 バイト、1920 ビット) です。 0 または 120 に設定することは出来ず、パラメータエラーメッセージが返されます。 テキストボックスは、読み取りデータとブロック消去データに対してのみ有効です。 データの書き込みには影響しません。

Password (Hex)：デフォルトは "00000000" です。 パスワード領域がロック/恒久的にロックされている場合、デフォルトのパスワード "00000000" を使用してタグの読み取り/書き込みができます。 他のメモリ領域がロック/恒久的にロックされている場合、デフォルトのパスワード "00000000" を使用してタグを書き込むことはできませんが、タグを読み取るために使用できます。

6.2.2 Read date

操作手順：

- (1) ターゲットタグを選定 (6.1 をご参照ください)
- (2) スタートアドレスを入力 (Start address)。
- (3) 読み取りの長さを入力 (Length)。
- (4) アクセスパスワードを入力 (Password)。

(5) 読み取りのメモリエリアを選択

(6) 「Read」 ボタンをタップ

読み取りが成功した場合、「Read date success」メッセージが表示されます。そして「Read/Write date (Hex)」テキストボックスに、読み取れたタグが表示されます。

また、「Ext Read」はメモリ大きいタグを読み取る時に使います。

図 6-2-2-1 Read date

注意：タグが選択されている場合、タグがアンテナの有効範囲内にあり、他のタグを読み取ることができない場合にのみ、タグデータを読み取ることができます。タグがアンテナの有効範囲内にない場合は、“Read data failed: No Tag Operable”というメッセージが表示されます。

タグが選択されていない場合、アンテナの有効範囲内のタグは、「読み込み」をクリックした後にランダムに読み込まれます。

マスクを有効にすると、アンテナの有効範囲内でマスクデータを含むメモリ領域を読み取ることができるタグのみが有効になります。（「6.3Mask」参照）

6.2.3 Write date

(1) タグに書き込む場所の Start Address とタグのアクセスパスワードを入力します。長さを記入する必要はありません。

(2) タグに書き込むデータを “Read / Write data (Hex)” テキストボックスに入力します。注：単語の単位で書かなければなりません。つまり、書き込まれる文字数は4の倍数でなければなりません。

(3) 書き込むメモリ領域を選択します。

(4) 「Write」をクリックします。書き込みが成功すると、操作レコードが表示されます。Write data success.

図 6-2-3-1 データを書き込み

また、「Ext Read」はメモリ大きいタグを読み取る時に使います。

「Block」ボタンはBlockを書き込む時に使います。

6.2.4 Write EPC Code

操作手順：

(1) ターゲットタグを選定（6.1をご参照ください）

(2) アクセスパスワードを入力

- (3) EPC エリアを選択
- (4) 「Auto Compute and add PC」を選択した後、データが自動的に書き込まれます。この選択肢の内容が「Read/Write date (Hex)」に入力したデータの長さによって自動的に変更されます。
- (5) 「Read/Write date (Hex)」テキストボックスに新しいEPC コードを書き込みます。(EPC タグのメモリストार्टアドレスは 0002)
- (6) 「Write」ボタンをタップします。書き込みに成功した場合、「Write date success」メッセージが表示されます。

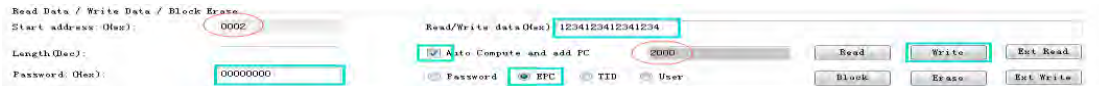


図 6-2-4-1 Write EPC

この時点で、Answer-Mode ページに行き、「Start」をクリックすると、タグの EPC コードが変更されたことがわかります。
 注意：この機能はタグが選択されていない場合は [5.5 write EPC code] と同等です。EPC コードの書き込みは [5.2.3 Write Data] の EPC 領域への書き込みとは異なります。EPC 領域の最初の 5 ビットは PC ビットであり、EPC コードは第 6 ビットから開始しています。「Auto Compute and Add PC」がチェックされている場合は、システムがチェックされ、開始アドレスを入力する際に PC ビットが考慮されます。

6.2.5 Block Erase

操作手順：

- (1) ターゲットタグを選定 (6.1 をご参照ください)
 - (2) Start address を入力
 - (3) Length を入力
 - (4) Password を入力
 - (5) Erase メモリエリアを選択
 - (6) 「Block」をタップ
- 消去成功になる場合、「Block erase success」のメッセージが表示されず。消去された部分は 0 に置き換えられます。

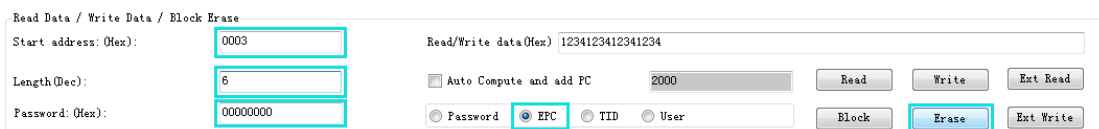


図 6-2-5-1 Block Erase

6.3 Mask

この機能は指定のマスクデータを含めるタグをクエリする時に使います。TID エリアの内容でターゲットタグをクエリした後、EPC エリアの内容を変更する場合によく利用されます。

TIDエリアの内容はメーカーより定められるため、変更できないため、正確にタグを検索できます。

TIDマスクを例とします：

アンテナ範囲内、TIDエリアに「Mask Start Bit Address」は0010 (Hex)、「Mask Bit Length (Hex)」は10以内、Mask Dataは「3412」のタグを検索します。

Mask	
Mask Start Bit Address(Hex): 0000	<input checked="" type="radio"/> EPC <input type="radio"/> TID <input type="radio"/> User <input checked="" type="checkbox"/> Enable
Mask Bit Length(Hex): 00	Mask Data(Hex): 00
Read Data / Write Data / Block Erase	
Start address:(Hex): 0002	Read/Write data(Hex): 0000
Length(Dec): 4	<input type="checkbox"/> Auto Compute and add PC <input type="text" value="0000"/> <input type="button" value="Read"/> <input type="button" value="Write"/> <input type="button" value="Ext Read"/>
Password:(Hex): 00000000	<input type="radio"/> Password <input checked="" type="radio"/> EPC <input type="radio"/> TID <input type="radio"/> User <input type="button" value="Block"/> <input type="button" value="Erase"/> <input type="button" value="Ext Write"/>

6-3-1 Mask

- (1) 「Enable」を選択します。
 - (2) エリアは「TID」を選択します。
 - (3) 「Mask Start Bit Address (Hex)」に「0010」を入力します。
 - (4) Mask Bit Length (Hex) に「10」を入力します。(Mask Bit Length =10、10進数の16 bits だという意味です)
 - (5) Read/Write date (Hex) を入力します。(※この部分の内容を含めるタグを検索します)
 - (6) 「Read Date/Write Date/Block Erase」部分の Start address : (Hex)、Length (Dec)、Password (Hex)、読み取りエリアを入力します。
 - (7) 「Read」ボタンをタップします。
- 設定された情報に合うタグしか応答されません。本例のマスク条件：TIDの二番目 Word は「3412」です。
タグのEPC内容を変更したい場合、「6.2.4 Write EPC」をご参照下さい。

6.4 パスワードを変更

6.4.1 Access Password

例：タグの Access Password を「12345678」に変更します。

操作手順：

- (1) ターゲットタグを選定します。(6.1 タグを選定をご参照下さい)
- (2) スタートアドレスを入力します。アクセスパスワードのスタートアドレスは「0002」です。
- (3) 当面のアクセスパスワードを入力します。初期値は「00000000」です；すでに変更された場合、変更されたアクセスパスワードを入力してください。
- (4) 「Password」を選択します。
- (5) 「Read/Write date (Hex)」のテキストボックスに新しいアクセスパスワード「12345678」を入力します。
- (6) 「Write」ボタンをタップします。成功になる場合、「Write date success」アラートが出られます。

Read Data / Write Data / Block Erase

Start address (Hex): 0002 Read/Write data (Hex): 12345678

Length (Dec): Auto Compute and add PC 2000

Password (Hex): 00000000 Password EPC TID User

図 6-4-1-1 Access Password 変更

6.4.2 Kill Password を変更

操作手順は 6.4.1 と同じです。

注意点：Kill Password の Mask Start Bit Address (Hex) は「0000」です。

6.5 Write EPC

操作手順：

- (1) アクセスパスワードを入力します。(タグの EPC エリアに保護のパスワードを設定していない場合、パスワードは「00000000」です。
- (2) EPC テキストボックスに書き込む EPC 内容を入力します。
- (3) 「Write EPC」をタップする度にアンテナ有効範囲内の任意タグに EPC を書き込みます。

Write EPC

EPC: 5555

Password (Hex): 00000000

図 6-5-1 Write EPC

アンテナ有効範囲内にタグのアクセスパスワードが自ら入力したパスワードと一致する、またはタグの EPC エリアに保護のパスワードを設定しない場合、「Write EPC」をタップすると、条件に相応しい任意タグに EPC コードを書き込みます。

「6.2.4 Write EPC Code」との区別：この方法はアンテナ有効範囲内の任意タグに EPC コードを書き込みます。指定のタグではありません。そして、PC ビットを無視できます。

6.6 Set Protect For Reading Or Writing

- (1) ターゲットタグを選定 (6.1 をご参照ください)
- (2) メモリエリアを選択します。
- (3) タイプを選択します。
- (4) アクセスパスワードを入力します。パスワードは全部「0」に設定しないでください。(パスワード変更は「6.4.1 パスワードを変更」をご参照下さい。)
- (5) 「Set」ボタンをタップすると、ロックが成功になります。

図 6-6-1 Set Protect For Reading Or Writing

タグの「Kill Password」と「Access Password」を選択し「Lock」または「Lock forever」の場合、パスワード「00000000」でタグを読み取り・書き込みができません；その他を選択した場合は「Lock」または「Lock forever」の場合、パスワード「00000000」でタグを読み取れますが、書き込めません。

6.7 Read Protection

注意点：この機能は NXP UCODE EPC G2X タグにだけ有効です。

図 6-7-1 Read Protection

6.7.1 Set Single Tag Read Protection

タグの EPC コードによって、選定されたタグに保護を設定します。設定した後、タグが読み取り・書き込み出来なくなり、タグが検索されません。保護を解除すると検索できる様になります。

6.7.2 Set Single Tag Read Protection Without EPC

EPC コードで特定のタグの保護を設定することではなく、タグを指定せずアンテナ有効範囲内ランダムタグに保護を設定します。

「6.7.1 Set Single Tag Read Protection」との違い：アンテナ有効範囲内に多数のタグが存在する場合、ボタンをクリックする度に、ランダムにタグの保護を設定します。この機能を使う場合、保護したいタグのアクセスパスワードを同じように設定することをお勧めします。

6.7.3 Reset Single Tag Read Protection Without EPC

タグの保護を解除する機能です。

注意：この機能はアンテナ有効範囲内に、タグが一つだけある場合に使用できません。

6.7.4 Detect Single Tag Read Protection Without EPC

タグが保護を設定したかどうかを検出する機能です。タグが読取保護をサポートしているかどうかの判別は出来ません。

注意：この機能はアンテナ有効範囲内に、タグ一つだけある場合に使用できません。

6.8 EAS Alarm

注意点：この機能は *NXP UCODE EPC G2X* タグにだけ有効します。



The screenshot displays the 'EAS Alarm' configuration screen. At the top, the title 'EAS Alarm' is shown. Below it, there is a text input field labeled 'Password (Hex)' containing the hexadecimal value '12345678'. To the right of this field is a 'Configure' button. Below the password field, there are two radio button options: 'Alarm' (which is selected) and 'No Alarm'. At the bottom right of the configuration area, there is a 'Detect' button.

図 6-8-1 EAS Alarm

6.8.1 アラーム設定

- (1) ターゲットタグを選定 (5.1 をご参照ください)
- (2) アラームの状態を選択：Alarm・No Alarm
- (3) 「Configure」をタップします。

6.8.2 アラーム検出


これはタグの EAS Alarm 状態を検出する機能です。「Detect」をタップすると、検出し始まります。この機能は EPC とアクセスパスワードが不要です。タグが EAS Alarm を設定されている場合、検出結果に「EAS Alarm」と表示されます。タグが「EAS Alarm」を設定していない場合、検出結果に「No EAS Alarm」と表示されます。

6.9 Kill Tag

- (1) ターゲットタグを選定 (6.1 をご参照ください)
- (2) Kill password を入力します。

注意点：タグを廃棄したい場合、事前に「kill password」を設定しなければなりません。(「6.4.2 パスワード変更」をご参照下さい) パスワードを「00000000」に設定する場合、無効になり、エラーメッセージが表示されず、ご注意ください。

- (3) 「Kill tag」をタップして、成功になる場合、タグが Kill されます。



Kill Tag

Kill Password: (Hex)

図 6-9-1 Kill tag